

32 第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013(バスケットボール) 出場報告

総合相談部総合支援課 会田 孝行

【はじめに】

デフリンピックはろう者のオリンピックとして、1924年にフランスで初めて開催されたデフスポーツ最高峰の国際大会である(開催当時は国際ろう者競技大会、1967年世界ろう者競技大会、2001年よりデフリンピックに改称)。我が国では、一般財団法人全日本ろうあ連盟が各競技団体等の協力を得て、選手団を派遣している。

当センターの運営方針「障害者スポーツの支援・普及」の一環として、ブルガリア・ソフィアで開催されたデフリンピック(2013年7月26日～8月4日)に、女子バスケットボールのスタッフとして参加する機会に恵まれたので、活動状況を報告する。

【結果】

9か国参加し、A(5か国)、B(4か国)ブロックに分かれ予選リーグ。予選リーグで各ブロック上位4チームの順位を決定し、計8か国で決勝トーナメント。<日本はBブロック>

※予選リーグ ①日本26-52ギリシャ ②日本53-58ロシア ③日本27-90リトアニア
予選リーグの結果、日本はBブロック4位

※決勝トーナメント1回戦 日本25-90アメリカ <敗戦のため順位決定戦へ>

※5～8位順位決定戦 日本67-62ベラルーシ <5位・6位決定戦へ>

※5～6位決定戦 日本37-45イタリア <最終結果 9か国中6位>

【現地での活動】

アシスタントコーチとしてチームに帯同した。ヘッドコーチ1名、トレーナー1名、選手11名、計14名のチーム構成であったが、現地では、ヘッドコーチが指導、采配しやすい環境を整えるとともに、戦略に関する協議、検討を行った。また、試合、練習等に関するスケジュール管理、会場までの交通手段の確保、試合会場での調整、食事の確認、氷等の必要物品の買い出し等を行った。自由に外出ができない、食べ物が合わない、会場へのバスが予定どおりに来ない等、国際大会では慣れない環境下での生活でストレスがたまりやすい。通常のメンタルで試合に臨むことが重要であるため、選手やスタッフが現地での生活にストレスを感じることなく、試合に専念できるようにサポートを行った。

【まとめ】

目標はメダル獲得であったが、達成することができず、1勝5敗の戦績で終わった。技術の向上、メンタルの強化、人材の確保等、浮き彫りとなった課題があるが、これらの課題をクリアしていくことで、メダル獲得の可能性を感じられた大会であった。メンバーは目標を達成すべく、フルタイムの仕事しながら練習や合宿に参加するなどして競技に取り組んでいた。他の競技も同様であり、デフスポーツを取り巻く環境は厳しい。そのような環境下で、デフリンピックに参加することで、コミュニケーションのあり方や自分の生き方を考えるきっかけとなり、その後の人生に影響を与えるなど、スポーツに関わることの意義が大きい。今後も各関係団体のご支援を受けながら、デフバスケットボールの発展に寄与していきたい。